

私たちはまちで学び、まちで育つ

～探検しよう、体感しよう、抱きしめてもらおう～

1 子どもの世代

私たちは、まちの中を生き生きと駆け回り、全身を使って学ぶことができる、いろいろなことにチャレンジできるまちで育ちたい。疲れた時や悩んだ時には、温かく包んでくれる、ホッとひと息つかせてくれる、そんな場所があり、そんな人たちがいるまち。こんな成長を見守る包容力を持ったまちで育ちたいと思います。

(1) まちを緑でいっぱいになろう

アスファルトだけの道では自然を感じることができません。私たちは、土の道や雑草の道、落ち葉の道など、自然や物の循環が感じられる社会の中で学び、育ちたい。まちをリサイクルや生ごみの資源化、※ビオトープなど、循環型社会の実習の場にしよう。学校も環境を学ぶ場所です。

※ビオトープ：湿地、雑木林、池など動植物の生息空間

(2) 川も海も大好き

川から海や港まで歩いて遊ぶことができれば、川や海の多様な環境を知ったり、多様な生き物と触れ合うことができ、とても楽しいと思います。そのような遊びの中で、川の源流から海までが一つにつながっていることを知り、川や海的环境の大切さを考えるきっかけになります。





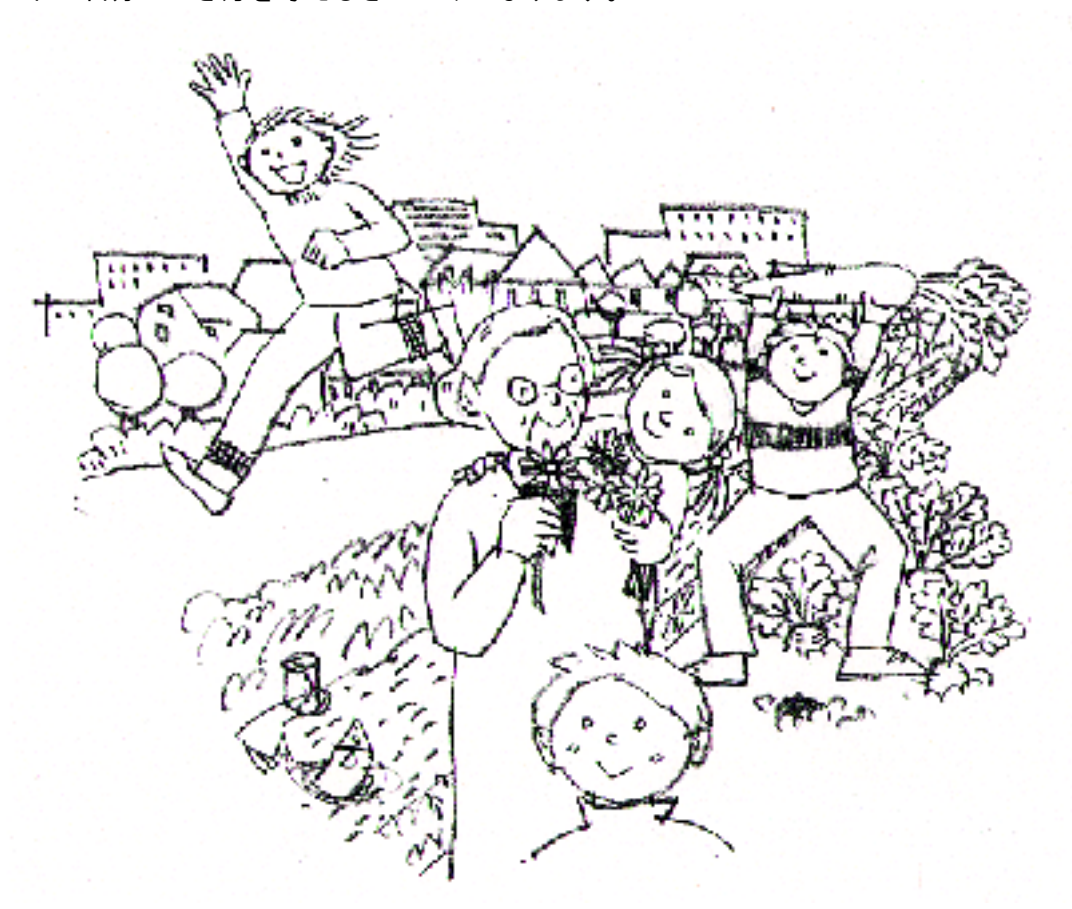
(3) 農業はすてきだと思う

農作業や収穫の手伝いなどをして、農業に触れたいと思います。そのことで、食料を得るための苦労や発芽から実りに至る植物生命の不思議、大地に息づく生物の多様性や食物連鎖などを知ることができます。

(4) 人間って面白い

まちは住むだけのものではなく、働くだけのものでもありません。さまざまな人が集まり、活動し助け合って生きています。

私たち子どもも社会の一員として、若い人からお年寄りまでいろいろな人と接し、人間の生き方や、世の中が回っている仕組みを知りたいと思います。それが自分の生き方を考えるきっかけになります。





(5) 都市の仕組みを知りたい

ごみ処理場や福祉施設、下水道など、市民生活やまちを支える施設を、まちの中で見られるようにして、都市を探検し、人間生活を支えているさまざまな仕組みを知りたいと思います。

(6) まちの宝物を探そう

まちを探検して、文化財や地域に眠っている資源に出会ったり、まちの語り部からお話を聞いて生きたまちの歴史を知るなど、私たち自分自身の手で、自分たちの宝物を発見したいと思います。また、博物館など子どものための施設は、私たちのやり方で使いこなすことを認めてほしい。

(7) 歩いたり、自転車でまちに出掛けよう

歩くことや自転車に乗ることによって、風を感じ、まちを体感することができます。車に乗る大人や健常者だけでなく、歩行者、自転車、障害者、外国人など、すべての人が移動しやすいまちは、子どもにとっても移動しやすいまちになります。

(8) 大人は私たちのことを考えた環境づくりを

大人の人たちは、自分たちが作り出す環境、例えば建物の色やデザイン、騒音や大気汚染などが、子どもに与える影響を考えて活動してほしい。